

Plan news

Oraciones Noviembre

a) Toma agua!
b) Sale asustado
c) Esta ne
d) Buena idea!
e) Granizo' Intensa
f) Mira

Miriam

Joel

ぼくらのプロジェクトレポート① [フィリピン・カモテス諸島]

自然災害から命を、地域を守るために。

東日本大震災活動 中間レポート
第2弾 (7月～9月)

プラン 支援者インタビュー

浜田真理子さん シンガーソングライター

今号の表紙：プエンテ・ピエドラ [ペルー・中部リマ郡]

現在プランは、スキンケアブランド「NIVEA (ニベア)」と連携し、各国で教育支援プロジェクトを進めています。写真は、同プロジェクトの活動開始記念式典の様子。式には地元の小学生、プラン職員、ニベア社員が出席。学校図書や教材の提供、児童によるオリジナル曲の演奏などが行われました。このプロジェクトは今後、「Learn without fear」キャンペーンと連動していきます。



Plan
プラン・ジャパン

自然災害から命を、地域を守るために。

[フィリピン・カモテス諸島] 災害リスク軽減プログラム

子どもとともに進める地域開発の一環として、プランでは「災害リスク軽減」プログラムを実施しています。この活動のなかから今回は、環境問題も含めた取り組みを大々的に行っている、フィリピン・カモテス諸島の様子を取り上げます。

PROJECT PROFILE

活動地域	セブ州北東部に位置するカモテス諸島は、サンフランシスコ島を主とする4島からなる漁業と農業の島。また人口の40%は18歳以下の子どもです。
背景	台風や季節風、高潮により、家屋の倒壊、農地の浸水、土砂崩れなどの被害が頻発。加えて、地球温暖化や気候変動の影響もあり、その災害規模や回数は年々増加しています。このような状況に対し地元自治体は、2011年より5カ年計画で災害リスク軽減及び管理に取り組む条例を制定。ポロックと呼ばれる独自の最少地域組織を基盤に、地域が一丸となって活動を行っています。
主な活動	子どもを中心とした災害リスク軽減と環境保全活動。
対象	子どもを含む地域住民約4万人



カモテス諸島

R E P O R T E R S



トリアさん(14歳) アンドレくん(16歳)
ともに、学校を拠点とする若者の災害リスク軽減推進グループに所属。子どもの代表として、さまざまな活動を展開しています。

活動内容について教えてください

T: トリアさん(以下**T**)：応急処置訓練や水泳教室などに参加しています。また、学んだことを地域の子どもたちと教えあう活動も行っています。

A: アンドレくん(以下**A**)：災害対策の重要性を住民同士で共有できるよう、上映会や集会を開いたりしています。マングローブなどの植樹も重要な活動のひとつです。

活動を通して学んだことは？

T: 防災教育の大切さです。「危険を感じたら安全な場所に避難する」。こんな基本的な

ことも、以前の私は知りませんでした。また、この知識があったおかげで危険を回避できた経験もあります。

A: 防災への取り組みは、自分たちの権利を守ることに直結するという。ぼくたちには災害の影響を受けることなく生活し、教育を受ける権利があると思います。

将来はどうなって欲しいと思いますか？

T: すべての人が災害リスク軽減の重要性を理解し、適正な行動を取れる。助けが必要な人には適切な対処ができる。そんな高い防災能力を持つ個人、地域になれればと思います。

A: 災害の最大の犠牲者は子どもです。大人がそのことを十分に認識し、子どもの安全を最優先に考え、行動できる地域を目指していきたいです。

カモテス諸島での活動は今年、国連の笹川賞を受賞。これを受け、2人は5月にスイス・ジュネーブで開催された国連防災会議にパネリストとして出席しました



災害リスク軽減プログラムと、その重要性

災害リスク軽減(Disaster Risk Reduction = DRR)とは、災害のリスクを事前に分析し、予防措置を取ることで発生時のリスクを軽減するという考え方。途上国では、災害が地域開発の障害になるものとしてその重要性が以前より指摘されており、活動の一環として取り組まれてきました。プランでは現在、21に及ぶ活動国のすべてでこのプログラムを導入。子どもをはじめとする住民とともに、防災意識の向上と災害対策の構築に努めています。

プラン国際本部の災害対策専門家であり、東日本大震災の緊急支援にも携わったユニクリシュナン医師は言います。「もし、日本ほどの高い防災能力を持たない途上国で同レベルの災害が起きたら、この程度の被害ではとても取まらないでしょう。日本は、身をもって災害対策の重要さ、効果の高さを世界に示したのです」。年々増え続ける災害被害を最小限に抑えるために、プランはこれからも活動を続けていきます。

災害リスク軽減プログラム

早期警戒システム
地域ごとに雨量計を設置。水位が規定値を超えると警鐘を鳴らし、避難を呼びかけるなどの措置を取ります



救助訓練
住民が主体の緊急対策チームを中心に、自然災害のほか事故や病気にも対応可能な救助訓練を定期的実施



災害対策訓練
誰でも簡単に安全・危険地域を把握できるハザードマップの作成から、避難経路の確保などを行う防災訓練のほか、山火事などを想定した消火訓練も



学校での防災教育
地元の小・中・高校では、防災授業は正式科目。学校で一齐に学ぶことで、防災知識の個人差の解消、地域全体の防災力の向上に繋がっています



水泳訓練
カモテス諸島ならではの活動のひとつ。島でありながら、児童のほぼ半数が水泳未経験者という状況の改善を目指しています



若者による教育活動
学校と子ども、そして地域を結びつける重要な役割を担っている若者たち。子どもの声を災害対策委員会に提言するなどの活動も行っています

地域環境の保全と管理

清掃活動
海岸部の清掃のほか、排水溝のごみ処理なども。また、排水溝にごみを捨てていた慣習が改められたことで、廃棄物が原因の洪水は大幅に減少しました



マングローブ林の再生
カモテス諸島での主要な活動のひとつである植樹。自然環境や海洋生物の保護、高潮被害の予防のほか、将来的な漁獲量の確保も目的としています

固有種の植樹
土地に合った固有種を植樹、育成することで、違法伐採などにより浸食の進んだ土壌を保護し、土砂崩れ、地滑りを防止します



プラン・ジャパンによる、災害リスク軽減プログラム支援 第1弾：フィリピン・マスバテ島「災害から子どもを守るプログラム」を開始しました

プラン・ジャパンでは今後、「災害リスク軽減」プログラムに注力していきます。その第1弾として、フィリピン・マスバテ島での活動支援を開始しました。東日本大震災を機に、国内だけでなく世界的にもますますその必要性

が重要視されている防災教育。このプログラムでは、今回取り上げたカモテス諸島同様、防災知識の不足からくる災害被害から子どもたちを守るための活動を行います。

みなさまからの温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。詳しくは本誌同封のチラシ、もしくはプラン・ジャパンウェブサイト「一般プロジェクト」ページをご確認ください。

プラン職員の活動日誌 ①

「児童労働のない地域を目指して」

マシューズ・ムシスカ

マラウィ・カスグ現地事務所 地域開発推進員

2010年1月入局。子どもや住民とともに進める地域開発をメインに、担当地域で深刻な問題となっている児童労働問題に関する活動も行っています。



マラウィの児童労働問題
多くの子どもが違法な児童労働に従事しているマラウィ。なかでも、約8万人もの子どもが働くタバコ農園では、ニコチンの皮膚吸収による健康被害が深刻な問題となっています。



地域開発の中核をなすのは、このような定期的に関くコミュニティ協議会



会合の様子。この日の議題は「孤児や虐待などの被害を受けた子どもの支援について」



HIVとエイズの学習会には自治体の担当官も同席



担当地域で大きな問題となっている、児童労働。その現場を関係者らと視察



視察後は、児童労働の実状に詳しい市教育担当者や若者などパートナーと情報交換



収穫物を運搬するタバコ農園で働く子どもたち

企業CSR報告

楽天銀行

東日本大震災で被災した子どもたちの心のケアを支援

楽天銀行では、同行が提供している「ハッピープログラム」というサービスを通じ、さまざまな社会貢献を行っています。

東日本大震災時にも、このサービスを通じ、利用者に付与する楽天スーパーポイント数と同額(1ポイント=1円)を同行が負担し、さまざまな団体を支援されました。プラン・ジャパンへは、その一環として2011年5月1日から1カ月間、同

行ウェブサイトを通じて「子どもたちの心のケア支援」として告知され、多くのご寄付が寄せられました。

また過去にも、学校建設プロジェクトにご支援いただいたほか、サービス利用者の手数料等の一部を寄付できる「ちょこっといいことプログラム」を通じて、継続的にご支援をいただいております。



住友化学

次世代を担うアフリカの子どもたちを支援

住友化学は、2003年より同社が開発したマラリアを媒介する蚊を防ぐ防虫蚊帳「オリセット® ネット」の生産をアフリカで開始、マラリア防圧と現地の雇用創出に貢献してきました。さらに2005年からは、「アフリカが発展していく上では教育の充実が必要不可欠」という考えのもと、同商品の売上げの一部で教育支援活動を行っています。プラン・ジャパンを通じては、2010年

11月よりマリとガーナにおける学校建設プロジェクトをご支援いただいています。教室の増築などの学習環境だけでなく、トイレや井戸などの衛生施設も同時に整備されるこのプロジェクトでは、就学率の向上とともに子どもたちの健康状態の改善も期待できます。現在マリで390人、ガーナで420人の児童が校舎の完成を心待ちにしています。



マリでの校舎建設工事の様子。地域の人も熟練技術を要さない作業を積極的に行っています

プラン 支援者インタビュー

わたしが思い描く子どもたちの、途上国の未来

シンガーソングライター 浜田真理子さん

子どもたちや途上国の、理想の未来像について伺う新企画。

第1回目の今回ご登場いただいたのは、スポンサー歴4年、シンガーソングライターの浜田真理子さん。

実生活では1歳になる双子のお孫さんを持つ浜田さん。子どもたちに向ける、温かな眼差しが印象的でした。



子どもたちの笑顔は世界の宝物です。
子どもたちが未来に希望を持って育っていくような世界に
なれますように。
Love & Peace
Mariko

すべての子どもが夢や希望を語れる世界に

支援を始めたきっかけは、一人娘の独立でした。子育てが一段落し、人生の区切りがあったこともあり、なにか世の中の役に立つことを、できれば子どもたちのためになることをしたいと思いました。そう考えた私に、友人が教えてくれたのがプランでした。国内・海外問わず、支援活動には長年興味を持っていたのですが、支援をすることへの迷いがあり、病院コンサートなど音楽家としての経験があるだけで個人としてはまったくの未経験でした。しかしこの時はこれまでと違いました。年を重ねたせいでしょうか、「もう迷っている場合じゃない、とにかく行動せねば。今度は私が世の中にお返しをする番だ」と強く思ったのです。

こうして始めた支援は、私の世界を一気に広げてくれました。それまで高くそびえる壁であった「支援」は、拍子抜けするほど低く身近なものになり、そして多くの友人・知人が、ボランティアや支援に日常的に携わっている先輩だと知りました。

交流を通して知る、「特別な当たり前」

現在交流しているチャイルドのクックさんは、14歳のベトナム人の女の子。これまで何度もやり取りをし、またご両親が私と同世代という共通点もあり、遠くに住む親戚のような親近感を持っています。

以前、彼女に数本の鉛筆をプレゼントしたことがあります。そのお礼として届いた、感謝の気持ちに溢れたお手紙。その手紙を読んでいてふと、「自分が同じ立場だったら、これほど喜べただろうか」と思いました。鉛筆が普通にあるという、特別なことが当たり前前日本。彼女との交流は、そんな忘れがちな“特別な当たり前”、そして感謝する心の大切さに気付かせてくれるのです。

夢や希望に満ちた未来を子どもたちに

子どもたちや途上国の未来に対する、

一言で言える理想像はないかもしれません。なぜなら、「目指すべき幸せの形はひとつではない。それぞれの人や地域によってふさわしい幸せがある」と思うから。ただ、「すべての子どもが教育を受けられ、安全で衛生的な環境で家族と暮らすことができる。そんな普通のことが普通に叶う途上国、ひいては世界であって欲しい」とは思っています。そして子どもたちには、絶望ではなく、夢や希望に満ちた未来を描いて欲しい。キラキラした瞳と笑顔で、自分たちの未来を語れる世界にしてあげたいと思うのです。

PROFILE
1964年島根県生まれ、松江市在住。学生時代よりピアノ弾き語りの仕事を始める。'98年1stアルバム『mariko』をリリース。これまで4枚のアルバムを発表したほか、廣木隆一監督の映画『ヴァイブレータ』の挿入歌、CMへの楽曲提供など、地元・松江を拠点に幅広い音楽活動を展開。現在は、資生堂アースケアプロジェクトのCMにおいて新曲『LOVE YOU LONG』がオンエア中。

東京マラソン2012 チャリティ「つなぐ」 テーマ「命をつなぐ」の 事業に協力しています！

東京マラソンは、前大会から“つなぐ”をテーマにしたチャリティを実施。次回2012大会(2月26日(日)開催)より、このチャリティの支援先のひとつとなるプラン・ジャパンは、寄せられたご寄付で「フィリピンの母子の生命が守られる、分娩可能な保健所建設と備品支給」プロジェクトを実施予定です。チャリティ寄付金の受付は2012年3月31日(土)17時まで。チャリティランナーの受付は2011年11月30日(水)17時まで(先着3,000人。定員になり次第終了)。詳しくは東京マラソン公式サイトをご確認ください。

子どもたちの活動は学校・地域をどう変えたか？ ～衛生教育プロジェクト in バングラデシュ 最終報告～開催

JICA草の根技術協力事業として2009年7月に開始したプロジェクトも、今年9月に活動を終了しました。学校の衛生設備の整備と並行し、学校を拠点に「子どもか



衛生意識啓発の歌を歌う子どもクラブ・メンバー

ら子ども、地域の人へ」と衛生普及を図った結果、プロジェクト対象校や地域はどのような変化を見せたのでしょうか？ プロジェクト・マネージャーが、映像や写真とともに、苦労した点やエピソードを織り交ぜながらプロジェクトの成果を報告します。

■日時：11月9日(水) 19:00～20:30

■会場：プラン・ジャパン事務局

(東京都世田谷区三軒茶屋)

■定員：40人

■お申込み・お問合せ：イベント担当

TEL：03-5481-0030

Mail：event@plan-japan.org

「1チョコ for 1スマイル～あなたが食べると、 もう1人がうれしい」キャンペーン実施中

今回で6回目となる森永製菓の「1チョコ for 1スマイル」キャンペーンが10月1日～31日まで実施中です。対象商品の売上からプラン・ジャパンに寄せられるご寄付は、東日本大震災への支援活動に役立てられます。



寄付金控除のための重要なお知らせ

2011年6月22日の法改正により、プラン・ジャパンが公益財団法人認定された2月1日以降のご寄付については、これまでの「所得控除」に加え、より減税効果の高い「税額控除」も選択可能となります。来年1月にお送りする領収証明書で改めてご案内致しますが、詳しくは最寄りの税務署にてご確認ください。

また一部の都道府県や市区町村では、個人住民税の控除が可能な場合がございます。詳細についてはお住まいの都道府県、市区町村にお問合せください。

※プラン・ジャパンは東京都および東京都世田谷区より個人住民税控除対象団体の指定通知を受けています

2011年1月1日から12月31日までにいただきましたご寄付の領収証明書を2012年1月下旬にお届けします。

以下の点にご注意ください。

●年末のご寄付は金融機関の都合により翌年分の取扱いとなる場合があります

●クレジット決済の領収日は決済代行会社あるいはカード会社からプラン・ジャパンに入金された日付となります

●ご支援申し込みの際に「領収証明書名」の指定がない場合は「登録名」が領収証明書名となります。「領収証明書名」を変更される場合は12月末までにご連絡ください。

以降のご連絡につきましては2012年のご寄付分からの適用となります

●住所変更のお届けがない場合は旧住所に送付されます。また日本郵便に転居届を出されていない場合はプラン・ジャパンに返送されるか、日本郵便の不着調査(調査期間2週間～)が必要となります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

■ご連絡・お問合せ：寄付金管理担当

TEL：03-5481-6100

FAX：03-5481-6200

Mail：kifukin@plan-japan.org

今年も「書き損じハガキで途上国 を支援」キャンペーン実施！

受付期間は12月～2012年1月まで。詳しくはプラン・ジャパンウェブサイトをご確認いただくか、ファンドレイジング部(TEL：03-5481-7100)までお問い合わせください。

お願い

ご登録情報やご寄付方法の変更等については担当までご連絡ください。

■連絡先：支援者サポート部

TEL：03-5481-6100 FAX：03-5481-6200 Mail：service@plan-japan.org

支援者の会から“こんにちは！” [プラン東京の会 佐藤さん]

各地でプラン・ジャパンを応援して下さる「支援者の会」。今回は1993年設立の「プラン東京の会」をご紹介します！

——会の特徴を教えてください

「肩肘を張らず、のんびり楽しく」、地域開発型支援について考えられる会であればと思っています。年2回、東京の下町・根津で開く例会は、さまざまな志・キャリアを持った方々が集まる楽しい会ですよ。

——参加に際し、工夫している点は？

交流の促進を目的とした立食式の懇親会やバザーを催しています。また、国際協力

分野で活躍される大学教授をお招きするなど、途上国の今を知ることができる内容になるよう努めています。

——最近の重大ニュースは？

直近では在日エチオピア大使、エチオピア民族舞踊団、プランの鶴見専務理事をお招きしました。理事より同国での支援活動や文化をご紹介いただき、最後は全員で民族舞踊を踊ったのですが、大使も飛び入り参加されたのにはびっくりしました。



エチオピア文化紹介の様子(上) / バザー風景(下)

支援者の会からの伝言板

プラン名古屋の会 イベント出展

■日時：10月22日(土)・23日(日) 10:00～16:00

■会場：久屋大通公園「もちの木広場」

■内容：ワールド・コラボ・フェスタ2011に出展します。参加費無料、申込不要。お手伝いの希望は要事前申込。両日とも終了後に懇親会を予定

■連絡先：安藤 TEL 052-412-0952

Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp

プラン・札幌の会

■日時：10月23日(日) 13:30～15:30(13:10開場)

■会場：北海道立道民活動センター

(かでの2.7)730研修室

■内容：プラン・ジャパン事務局長による、東日本大震災活動報告。参加費500円。要事前申込

■連絡先：西崎

TEL・FAX 011-644-5845

携帯 070-5601-2504

Mail：p-kai@plan-japan.org

北九州FP会

■日時：10月29日(土) 18:00～20:00

■会場：ウェルとばた 83,84会議室

■内容：プラン・ジャパン事務局長による、東日本大震災活動報告。参加費無料。要事前申込

■連絡先：成重 携帯 070-5536-6940

Mail：rwsbd076@yahoo.co.jp

プラン・長崎ペアレントの会「秋の集い」

■日時：10月30日(日) 13:30～15:30

■会場：中央公民館(長崎市民会館2階)

■内容：プラン・ジャパン事務局長による、東日本大震災活動報告。定員50人。参加費無料。要事前申込

■連絡先：深堀

TEL 095-845-8021

FAX 095-844-6930

Mail：plan.nagasaki@hotmail.co.jp

FPスリランカの会 例会

■日時：11月5日(土) 14:00～17:00

■会場：横浜市開港記念会館

■内容：チャイルド訪問の報告、プラン・ジャパン職員による、東日本大震災活動報告、懇親会(自由参加)。参加費500円。要事前申込

■連絡先：池本

Mail：ikemotom@zj8.so-net.ne.jp

第11回 庄内・羽後プランの会

■日時：11月13日(日) 13:00～16:30

■会場：秋田中央公民館(予定)

■内容：①プラン・ジャパン事務局長による、東日本大震災活動報告 ②手紙書き(その場で英訳の予定)。参加費500円。要事前申込

■連絡先：岩谷

TEL・FAX 0184-46-2018

Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

第13回 多摩SP会

■日時：11月20日(日) 13:30～17:00(13:00開場)

■会場：八王子子クリエイトホール 10階

第5学習室

■内容：多摩地区在住の方によるチャイルドのコミュニティ訪問の報告。定員30人。参加費500円。要事前申込

■連絡先：世話人

Mail：tama-web3@ngo-npo.org

プラン尾張の会

■日時：12月4日(日) 13:30～15:30

■会場：一宮スポーツ文化センター

■内容：プラン・ジャパン職員による、東日本大震災活動報告と児童労働に関するDVD上映。参加費無料。要事前申込

■連絡先：秦野

TEL・FAX 0586-72-5433

Mail：bikke_feld@ybb.ne.jp

プラン千葉 イベント出展

■日時：12月11日(日) 10:00～16:00

■会場：千葉大学 食堂内

■内容：グローバルフェスタ chiba 2011に出展します。参加費無料、申込不要。お気軽にお立ち寄りください

■連絡先：前田

Mail：e-maeda@yellow.plala.or.jp

※最新情報については、プラン・ジャパンウェブサイトをご確認ください ※次号(2012年1月中旬発送予定)に掲載希望の支援者の会の告知については、11月11日(金)までに担当までご連絡ください。イベント告知については2012年1月23日(月)～4月23日(月)までに開催されるもの。原稿は編集させていただく場合があります

「みんなで笑顔! プロジェクト」実施中

参加型コンサートなどの子ども向けイベントに、教員・保護者のための心のケアワークショップなどを合わせた「みんなで笑顔! プロジェクト」を宮城県内で実施しています。楽しくストレスを発散して、心のケアを目指すこのプロジェクトは、年内いっぱい各地で開催予定です。

「ケア・宮城」活動報告

宮城県内の心理士会の有志によるサポー

トチーム「ケア・宮城」と展開している、教員・保護者向け心のケア研修。8月までの4カ月間に県内40カ所で開催、約2,300人が参加しました。また9月18日(日)には、仙台市内にて「第2回子ども支援フォーラム」を主催。3人の専門家が登壇し、子どものストレスケアについての情報提供を行いました。

TERUに2人の専門家が着任

東日本大震災支援対策室(TERU)専任のスタッフとなる、オランダ人医師マルグリット・ブラウさん(写真左)とインドネシ

ア人心理士フェティ・ザクラさん(同右)の2人が、8月17日(水)に着任しました。現場経験豊富な専門家として、子どもの心のケアにまつわるさまざまなプロジェクトに取り組んでいきます。



「未来を写そう!」プロジェクト 子どもたちが語る、被災地の絆と希望 開催

東日本大震災発生から半年となる9月11日(日)、東京・秋葉原UDXギャラリーにて、宮城県内3校で実施した「未来を写そう!」プロジェクトの報告会を200人あまりの参加者を集め、開催しました。メインプログラムの七ヶ浜中学校生徒による映像発表では、上映に加え、活動を通しての気付きや復興への思いも披露。参加

者より大きな拍手が贈られました。その他スマトラ沖地震・津波の被災者、ソバーナスさん、プランの災害危機管理ディレクター、ロジャー・イエーツも登壇。各々発表や報告を行いました。最後は、プラン・ジャパンの支援者であり、バイオリニストのMASAKIさんが、被災地への思いを込めた自作曲を生演奏。報告会の幕を閉じました。



①右から七ヶ浜中学校のみなさん、MASAKIさん、ソバーナスさん、イエーツ職員 ②「震災の教訓を受け継ぐのは自分たちの役目」と語った中村明穂さん ③3市町の被災状況を写真とパネルで紹介 ④展示室では小学生による写真と中学生による映像を発表 ⑤写真に添えられた児童直筆の作品タイトルとコメント

「未来を写そう!」プロジェクトとは?

子どもたち自身に写真や映像を撮影してもらい、彼らの意見や声を、作品を通し国内外に広く発信する子どもメディア・プロジェクト。プランが各国で行ってきたこの活動の国内版が、この「未来を写そう!」プロジェクトです。

【プロジェクト詳細】

宮城県石巻市立開北小学校、
宮城県女川町立女川第二小学校

■参加児童計56人
(開北20人、女川36人)

■写真テーマ

「生まれた絆」、「復興の芽」、「将来の夢」

宮城県七ヶ浜町立七ヶ浜中学校

■参加生徒9人(報告会参加者8人)

■映像作品タイトル

「津波がくるとは思わなかった」

「被災地の記憶～私たちのメッセージ～」

写真・映像作品は、プラン・ジャパンウェブサイトにて公開中です。ぜひご覧ください。

報告会 in 神戸 開催のお知らせ

11月12日(土)に兵庫県神戸市・あすてっぷ KOBEにて、プラン・ジャパン報告会「東日本大震災後の子ども支援 ～心のケアを中心に」を開催。参加方法等詳細については、プラン・ジャパンウェブサイトをご確認ください

今後の予定

12月4日(日) 宮城県仙台市・せんだいメディアテークにて、「未来を写そう!」プロジェクト 子どもたちが語る、被災地の絆と希望 写真展×報告会 in 仙台を開催

2012年3月24日(土) 東京都世田谷区・キャロットタワーにて、東日本大震災発生から1年を区切るイベントを開催

その他子どもマガジンの制作、仮設住宅における子どもにやさしいスペースの運営などさまざまな支援を順次実施